

# SERI NEWS RELEASE

平成 24 年 5 月 25 日

一般財団法人静岡経済研究所  
理事長 鈴木一雄  
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13  
アゴラ静岡 5 階  
TEL054-250-8750  
FAX054-250-8770

## 第 34 回

## 「静岡県版 景気ウォッチャー」調査(平成 24 年 4 月)

～足元景気は 3 期ぶりに持ち直すも、先行き不透明感は拭えず～

- 平成 24 年 4 月実施の「静岡県版 景気ウォッチャー」調査では、県内景気の「現状判断指数（方向性）」は 52.5 と、前回 1 月調査（41.9）比で +10.6 上回り、景気横ばいを示す「50」を 3 期ぶりに超える「改善」判断となった。
- また、2～3 カ月先の「先行き判断指数（方向性）」は 51.5 と、前回 1 月調査（50.0）比で +1.5 ポイント上昇し、8 期ぶりに「改善」見通しとなった。好調な新車や住宅・マンション販売、復興需要の顕在化を受け、足元景気は回復の兆しが見られるが、国内外の政治、経済情勢への不安は強く、全体として予断を許さない状況が続いている。

担当：梅原加奈子・石川祐介



## 総合判断 現状判断は3期ぶり、先行き判断は8期ぶりの「改善」

平成24年4月調査では、現状判断指数は52.5と前回調査（41.9）を+10.6ポイント上回った（図表1、2）。家計消費関連、事業所向けビジネス関連、雇用関連の3分野とも景気横ばいを示す「50」を上回り、ウォッチャーは静岡県内の景気が3カ月前と比べて改善していると判断した。また、先行き判断指数は51.5と前回調査の横ばい予想（50.0）を+1.5ポイント上回り、2～3カ月先の県内景気も改善すると見ている（図表1、3）。

現状判断指数が上昇した要因としては、新車販売や、住宅・マンション販売が好調であった家計消費関連が、前回比+11.1ポイントと上昇したほか、事業所向けビジネス関連が、復興需要の顕在化などにより+13.2ポイント上昇したことが挙げられる。また、先行き判断指数は前回比+1.5ポイントで、新東名高速道路の開通効果や震災後の自粛ムードから復調した春夏の行楽需要により、消費マインドが上向くとウォッチャーの期待感がある一方、国内外の政治・経済情勢への不安感も強く、小幅な上昇となった。

### 調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的にしている。
- (2) 調査対象：家計消費、事業所向けビジネス、雇用など、経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者。

分野	ウォッチャーの代表的な業種
家計消費関連（n=76）	
小売関連（n=32）	百貨店、スーパー、乗用車販売、書籍販売 など
飲食関連（n=8）	飲食店、割烹、外食チェーン など
サービス関連（n=29）	観光ホテル、旅行代理店、カルチャーセンター など
住宅関連（n=7）	不動産販売、住宅販売、住宅展示場 など
事業所向けビジネス関連（n=17）	印刷、広告代理店、運輸、司法書士、情報サービス など
雇用関連（n=9）	人材派遣、職業紹介、求人情報誌 など

- (3) 調査方法：各企業の担当者に対するアンケート調査
- (4) 調査事項：①現在の景気の水準について  
②景気の現状に対する判断（3カ月前との比較）  
③その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など（自由回答）  
④景気の先行きに対する判断（2～3カ月先の予想）
- (5) 調査時点：平成24年4月下旬
- (6) 回答状況：調査対象108名のうち、有効回答を寄せていただいた方は102名で、有効回答率は94.4%である。

\* 景気判断指数とは、景気の実況や先行きに対する判断を点数化（下表）し、それらに各判断の構成比（%）を乗じて指数（D.I.）化したものである。これにより、判断指数（方向性）においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。また、現在の景気（水準判断）については、指数が50を上回れば景気が「良い」、下回れば景気が「悪い」ということになる。

評価	現在の景気 (水準判断)	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い
	現状判断		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる
先行き判断		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
点数		+1	+0.75	+0.5	+0.25	0